主な記事
2面　司教館の窓から、高松教区の兄弟姉妹たち、ひと、典礼奉仕
3面　若い力
諸委員会紹介
4面　医療のともしび、
教区・司教スケジュール
書籍紹介

カトリック高松教区報

2010年1月1日（第134号）
発行所　カトリック高松司教区 広報委員会
〒760-0074　高松市桜町1-8-9
TEL 087-831-6659　FAX 087-833-1484
Email
教区：catholic-takamatsu@takamatsu.catholic.ne.jp
広報：tk-koho@mxi.netwave.or.jp
生涯養成：yosei@takamatsu.catholic.ne.jp
WEB http://www.takamatsu.catholic.ne.jp/

高松教区の信者の皆様へ 新年のご挨拶を申し上げます

「二十一世紀を迎えて」という教皇ヨハネ・パウロⅡの文書が出されてはや十年が経ちました。

希望をもって迎えた二十一世紀は平和の願いもむなしく、戦争の絶えない世紀明けとなっています。

それでも希望を持って生きていこうとするのが私たち信仰者の務めです。自分の中に平和、社会の中に平和、世界に平和をと、私たちは戦争と憎しみのない世界の構築に励んで参りましょう。二〇一〇年の高松教区の上にも大きな希望が溢れることをお祈りします。

溝部　脩

二〇一〇年一月三十日（土）「教区民の集いin香川」に代え 小教区代表者の集い

予定した二〇〇九年度「教区民の集い」（十月十八日）はインフルエンザ対応措置で延期となりました。それにともない「宣教大会」を目指して、司祭評議会と宣教司牧評議会を経て二〇一〇年一月三十日（土）に小教区合同会議を開催する事になりました。更に、その会議に向けての準備会を組織し、十一月四日（水）第一回目の会合が開かれました。諏訪神父を中心として諸委員会委員長がこの任に当たり、準備を急いでいるところです。

司祭年を記念して ③ 虹＝希望のしるし

中島町教会　アントニサーミ・イルダヤラージ

新年を迎え、司祭年も半分ほど過ぎましたが、私は、司祭について「何を分かち合ったらよいか」と考えました。私は十一月に韓国のインチョンで開かれたAOS（Apostles of the Sea＝船員の司牧）に参加しました。そのとき一人の韓国人司祭が虹について話しました。

皆さんは司祭とはどんな人たち、あるいは何をする人だと思っているでしょうか。教会で秘蹟を授ける人、祝福を与える人、そして皆さんの信仰を強めるために霊的な助けをする人です。私は司祭になって七年経ちました。虹は七色です。私にとってこの七年は七色のようにパッと現れたわけではありません。

聖書のノアの物語は皆さんもよくご存知だと思います。そこには「神はノアをご覧になった」とあります。神がノアに何かをするように言われれば、彼はそのとおり従います。神の御声に耳を傾ける人は幸いです。神は民が救われるために箱舟を造るように言われました。その上、作り方も教えます。ノアは自分自身のことだけでなく、家族はじめすべての人々、創られたすべてのものの救いを考えました。ノアは箱舟を造っているうちにさまざまな疑問が浮かんできました。「私は何をしているのか？一体何のために？」

皆さん、司祭は誰もがノアです。神から選ばれた者です。共同体である教会を造って人々を救うためです。私は神学校で勉強をしていたとき「あなたはなぜ司祭になりたいのか？何のために？」と聞かれたことがあります。私の答えは簡単でした。「神様が好きだから」。

七色の虹はどんなとき現れるでしょうか。強い風、雷、大雨の後などです。虹は希望のしるしです。人が生きていく中で体験する辛さや苦しみ、失望の後に希望の虹が現れるのです。司祭は虹です。皆さんに希望を与えるしるしです。

飛躍誓い記念ミサや祝典 フラダンスも好評

鳴門教会

カトリック鳴門教会は、去る十一月三日の文化の日に創立五十周年を記念する行事を行いました。各地から駆けつけてくれた九十余名の参加者とともに記念式典と福音の恵みを祝いました。

私たち鳴門教会はその創成期において、今なお誇らかな郷愁をもって語り継がれる独特の歴史をもっています。伝道師 津田季穂先生を中心とした熱気あふれる若者たちのグループが巡回教会となり、一九五九年に鳴門市撫養町南浜に教会が建立されました。二十年ほどこの地で宣教活動を続けましたが、建物の傷みにより改築を余儀なくされ、一九七九年に現在の撫養町黒崎に移転して今日に至っています。

記念ミサは溝部脩司教様の司式のもとに行われましたが、祭壇域にあふれる二十名を超える司祭たちの姿はまことに壮観でした。続く記念式典では、関係者各位から心のこもったお言葉をいただき感激しました。また地元のリゾートホテルに席を移した祝賀会では、たくさんの思い出話に花が咲きました。余興で披露された鳴門名物のフラダンスは、初めての人はびっくりされたようですが、たいへん好評でした。参加者の皆さんから「こんないい式典なのにどうしてもっと大勢の人を招待しなかったのか」と問われましたが、もともと簡素を旨とすることを申し合わせていたことを説明して納得していただきました。お声をかけなかった教区の皆様にはまことに申し訳ございませんでした。最後に皆で聖歌を斉唱して幕を閉じました。

私たち鳴門教会の信徒はいま、この五十周年が飛躍の礎になることを願いながら、次代の教会共同体づくりへの決意を新たにしています。

創立五十周年を祝う

愛伝えた先人たち偲ぶ 喜びの堅信式も

三本松教会

オルランド・ルイジ

私は三本松教会の創立五十周年の日に堅信を受けることができました。この日のために働いてくださった三本松教会の信者や、感謝の祭儀に参加して下さった高松教区のすべての人に、三本松教会の受堅者七人を代表して、皆様に感謝したいです。

私はこの祝日をとおして三本松教会の信者の間だけでなく、教区全体の信者間の交わりを感じることができました。何ヶ月も前から行なわれていた五十周年の日のための準備に、皆がすべてうまく行くようにと努力していたことをみても、兄弟である交わりをとおしてひとつの教会、ひとつの教区と感じることができました。

五十年の間三本松教会がこの地域に神の愛を述べ伝えることに励み、先立たれた兄弟たちの苦労を思い起こすと、たくさんの神からの恵みをみることができると思います。たくさんの神父や、ドミニコ会のシスター、また子供や青年、たくさんの信者の昔からの写真や出来事をみながら、七年前日本に来た自分が宣教家族の子供として、ここで行なわれる神の救いの歴史の中に入ることができたと感じています。

しかしこれが十分なのか、これからどうすればよいのかと自分に問いかけています。青年でありながらはっきり分からないことがたくさんあるが、これからも神が許す限り、教会とともにこの神の愛を待っているすべての人々に自分の体験を分かち合っていきたいです。

はばたき

来月、勤務先の大学で、「国際的移動」を統一テーマにした学生主体の催しが開かれる予定だ。私もその企画や運営に若干関わっている。過日、私は、統一テーマのサブタイトルとして、「ワカレバカワル、カワレバワカル」という言葉を提案した。関西人のオヤジギャグ・・・と言われればそれまでだ。でも、「何かを知ったことによって、自分の行動が変わったり、ものの見方や行動を変えることによって、新たな気づきがあるということを大切にしよう」というメッセージを込めたつもりである。

同時に、学生たちには「去年今年貫く棒の如きもの」（高浜虚子）という俳句を紹介しつつ、何でも変わればよいというものではなく、変わるべきでないことも追い求めてほしいということも、併せて伝えた。

すると、ある学生から、「先生自身にとって、変わるべきものと変わるべきでないものは何ですか」と問われた。私は一瞬とまどいつつ、「よい授業をしたいという思いは変えたくない。それをベースにして、授業に対する不断の見直しと改善に心がけたい」と答えた。そして、すべては神から与えられていたメッセージだと、すぐに気づいた。

新しい年が明けた。「古い自分に死んで、新たな人となる」ということ、また逆に、年月が経ても変わらないものは何かということに、思いを巡らすのに適した時節である。新年明けましておめでとうございます。神に感謝！

高松教区の兄弟姉妹たち ⑦

オブレート会（汚れなきマリアの献身宣教会）

本会は、1826年に教皇によって認められた修道会で、フランス人のウジェーン・ド・マスノが、革命で荒廃していた当時の貧しい人々の生活を救おうと、同じ思いに燃える司祭を集めたのがその始まりでした。以来200年近く、活動の場は全世界へと広がり発展しました。母であり指導者であるマリアのもとに働く会員たちは、最も貧しく、最も見捨てられた小さな人々に、よきおとずれ（福音）をもたらすことを第一の使命とし、その活動によって、”教会のショック部隊”とか、”最も難しい宣教地の専門家”とも呼ばれています。

終戦後、当時の大阪教区田口司教から南四国の宣教を要望されたオブレート会のデシャトレ総長は、人員の理由からいったんは断ったものの、ほかの宣教師が誰も来てくれないことや南四国が困難な宣教地であることを知り、喜んで引き受けました。1948年11月、最初の宣教師（アメリカ人）3名が日本に到着し、日本語の習得を終えて翌年1949年12月、正式にオブレート会の宣教が徳島・高知地区から始まりました。

今の『時代』にオブレート会士として私たちは、特に貧しくされた人々が必要としていることを通して、私たちに呼びかけているキリストの声を注意深く聴こうと常に努力しています。急激な変遷の状態にあるこの世界の中で、この叫びは痛ましく切迫しています。

世俗主義的な考え方、家庭生活の崩壊、環境の汚染、女性に対する差別、若者たちの間にみられる混乱、現代の貧しくされた人々…、キリストはこの傷ついた世界のただ中に、再び生まれようとしています。私たちはこの希望の約束に奉仕するため、キリストを中心に集まり、この世界の生命の糧となるよう努力しています。

私たちは、宣教の第一のかけがえのない方法は、キリスト者の生活の証しであると考え、修道共同体を礎に、私たちの周囲にいる最も弱い立場にある人々と共に、自分の生活をかけて関わることを私たちの課題としています。

ひと　はざた雅子さん

はざた雅子さんを一言で紹介すれば「神様とカンテレに捕らえられた人」という言葉に尽きます。

彼女はフィンランドのカンテレという民族楽器に興味を持ち、同国を旅行しました。そのとき中古の品を購入して帰ったのがカンテレとの出会いでした。

琴は師範の腕前で、ピアノにも幼い頃から親しんでいた彼女はすっかりカンテレの虜になってしまい、遂にはフィンランド留学を決意したのです。

ちょうどそのころ、教会の門をたたいていた彼女の顔を郡中教会で見かけるようになりました。何故、教会に来たのと今問うても「何か悩みがあったのかな。近くにカトリック信者の家族が居られ、その生活態度に惹かれたかな」と言っています。その後受洗しましたが、留学先のフィンランドからはカンテレの音色のすばらしさ、神様の取り計らいに感謝のこころが溢れる便りばかりを届けてくれました。

カンテレ演奏に打ち込む姿勢は今も変らず、テレビを見る時間があればカンテレを弾いている方がいいと言っています。「私の大好きな神様と、カンテレを一人でも多くの人に知ってもらいたい」と東京を拠点に、後輩の指導や演奏活動に頑張っています。

信仰とカンテレが中心にある、簡素でシンプルな生活の中に、心豊かな人生をおくっています。―関連記事四面―

文責（郡中教会　今泉洋子）

ちょっとひと憩

聖夜ミサ了へてしづまる路地戻る
ロザリオを祈りながらの日向ぼこ
目に力こめて初日を見守りぬ

松山教会　森川美枝子

司教館の窓から

司教のひとりごと

昨年司教館の食堂は阪神タイガーズの勝ち負けで毎日話が弾んだ。阪神は勝っても負けても話題を提供する。

阪神ファンであれば否応なく連帯感を感じ、鬱にかかることはないと某教授が述べていた。確かに阪神のことで司教館には連帯感が生まれている。惨敗（惜敗？）の阪神を話題にして一年が暮れていった。司教館の住人に深い連帯感を植え付けてくれたことに感謝したい。ちなみに私はアンチである。

二〇〇九年十二月十六日
聖マルチン病院
クリスマス会風景
（聖マルチン病院コーラス部）

「初心忘るべからず。」

皆様、明けましておめでとうございます。新年ですので今日は日本の霊性と典礼について考えてみましょう。

さて、事の始めによく挨拶などで引き合いに出される言葉に「初心忘るべからず。」というのがあります。これは能楽を大成させた世阿弥（一三六二～一四四三）の『花鏡』という本の奥の段からの引用だそうです。

この言葉は普通、「物事のやり始めの初々しい謙虚な気持ち、新鮮な志を忘れずに励め」と理解されていますが、これは誤解だそうです。

世阿弥によると、そもそも「初心」とは、生涯にわたる芸能が定まる「初め」、すなわち芸能がある程度上達して自分なりの「型」が定まったときの気持ちを指すもので、物事のやり始めを意味しているのではないとの事。また、「初心」は人生の新たな節目ごとに遭遇するもので、世阿弥は三つの初心を挙げており、能楽師の一生は初心の連続であると述べています。

その道の人たちは、たくさんの失敗や、未熟な芸を繰り返して、やっと自分の「型」を見出し、花を咲かせます。この時の甘じょっぱい経験、自分の無様（ぶざま）さの記憶と成功した喜び―この両義性こそ「初心」の特徴といえるのではないでしょうか。そして一番怖いのは、一時の成功に慢心して自分の無様だった芸を忘れてしまうことで、それで芸は終わりになってしまうかもしれません。

それにしても成功とは不思議な体験です。あえて言えば、「上からの体験」と言えます。人は八方塞がりであっても、この「成功体験」を思い出して希望を持つ事が出来ます。成功は自分の無様さと直面する場、「未熟な過去の自分の記憶」に咲いた花のようなものです。「恵みの体験」に近いものかもしれません。そして「初心忘るべからず」とは、この「未熟な過去の自分の記憶に咲いた恵みの花」を生涯にわたって心に刻み続けよ、ということでしょう。

ここに至って私には、神の民イスラエル（教会）の歴史が思い浮かんでまいります。あのエジプトの惨めな奴隷状態からの恵みによる解放―「出エジプト」こそイスラエルにとっての「初心」でありましょう。この「初心」を忘れたとき、すなわちダヴィデ王朝以降の繁栄の中でイスラエルは堕落していきました。

預言者たちは「出エジプトの出来事を忘れるな！」つまり「初心忘るべからず！」と叫びました。またこの「初心」は一度きりではなく、節目節目に繰り返し遭遇するものでした。イスラエルにとって「バビロン捕囚からの帰還」が第二の「初心」でしょう。

出エジプト、バビロン捕囚からの帰還…最後の「初心」は終末の出来事の中にあるのかもしれません。

私たちキリスト者の生涯にも同じことが言えるでしょう。私たちはミサにおいてイエスによる新しい「出エジプト」、新しい過越を記念しています。それは自分の罪の惨めさに直面し、同時にそれ以上に神様の恵みの業を思い起こし、生涯にわたって心に刻み続けさせて頂くことでしょう。それは「過去の自分に咲いた花」、恵みによる「新しい自分」を生き続けることにほかなりません。

皆様にとって「出エジプト」とは何ですか？

「初心」とは具体的には何でしょうか？

お互いに「初心」を忘れずに成長させていただきましょう。「信仰生活という舞」の在り様を追い求めましょう。

『典礼奉仕』のために ⑥

稲毛利之師

わたしが出会った司祭
これが本当の教会です

徳島教会　ペトロ　滝澤英一

是非とも徳島教会の神父様の自慢話をさせて下さい。

ミサが始まる時に、「今日の福音ではこんなことが出てくるから、このキーワードに気を付けてミサに与りましょう、そしてミサが終わったら持ち帰りましょう」と言って、さまざまなヒントを下さいます。

説教の時は、説教台の前から会衆席まで進出して来たり、大げさな身振り・手振りは、さすがアメリカご出身、と思わせます。

「ちょっとだけ静かに考える時間をもちましょう」と言って（神父様口癖その1）黙想の時間を持ったり、どこからともなく収集した資料を週報に挟み込んで、私たちの信仰が膨らむように、常に心を配って下さいます。

一度私は神父様と大激論をした事があります。教会を良くしたいという私の気持ちと、徳島教会は各信徒が現状でも一生懸命に頑張っている、という神父様の気持ちとが食い違い、感情的になり、激論になりました。最終的には理解し合えたのですが、神父様の、教会を思う気持ちの強さに圧倒されました。この時のみならず、小教区評議会の席上や信徒会館建設の検討においても、ものすごいバイタリティーを持って自説を主張されます。

神父様は聖霊の働きをいつも願っています。その確信が力強さの源なのでしょうか。「聖霊は、今、何を伝えようとしているのでしょう」というのも神父様の口癖です。（口癖その2）

神父様は徳島教会の事を本当に愛して下さっています。あちこちで信者同士が自主的に輪を作っているのを見るのが嬉しいようで、「これが本当の教会なのです」（口癖その3）と喜んだ表情をされています。

神父様に導いていただいている私たちは幸せです。外国から来られて、ご苦労も多いと思いますが、どうぞ末永くお元気で。未熟な私たちですが、よろしくお導きください。

若い力

高松 青年バンド

野村健介

今回高松青年バンドが発足したのは、ひょんなことがきっかけだった。

まず、僕は高松の人間ではない。生まれも育ちも高知県高知市の生粋の高知県人だ。ではなぜその僕が高知から120㎞以上も離れた香川県高松市で青年バンドに関わっているのか？それにはあるいきさつがある。約2ヶ月前、僕は高知でほとんど引きこもりのような生活をしていた。家から出るのはバイク仲間から誘われた時か毎週日曜日の教会でのミサだけ。

そんな生活を続け自分が精神的に危ない状況まで追い込まれた…いや追い込んでしまった時僕に救いの手がさしのべられた。高知のBr.八木から温泉に行かないかと誘いが来たのだ。僕は迷わず快諾した。誰かと時間を共有したかったから。そこで家を出て高松の司教館で生活してみないかと提案があった。これが今僕がここ高松の地にいるいきさつ。で、高松に来る前に事前に溝部司教様から頼みたい仕事があると聞かされていた。それが後に青年バンドとなる高松での青年活動であった。

青年活動を盛り上げてくれと司教様から言われたとき、僕にはどうにも出来ないのではないかと断ろうかとも思った。しかし、今まで司教様からしていただいたことを次は僕が高松の青年達にする番なのではないか？それが司教様に対する一番の恩返しなのではないか？そう思い引き受けた。その際自分が

青年達に伝えられること、一緒に楽しめること、司教様だけでなく信者の皆様にも喜んでいただけることを考えた時、自分の好きなギターが一番初めに思い浮かんだ。それが高松青年バンドのきっかけだ。そして今徐々に人数も増え始め、みんなもやっと弾けるようになってきた。

どこまで行けるのか高松青年バンド。これは僕の挑戦でもあり、青年達自身の挑戦でもあり、さらにバンドとしての挑戦でもある。皆様にはこの青年バンドを温かく見守ってあげてほしい。そして時には手をさしのべてあげてほしい。イエス・キリストのように、聖母マリアのように…。

番町教会　河合　香

「高松に青年バンドを作ろう」という計画を司教様からお聞きした時に、私は、バンドを作るなんて本当にできるのだろうか、と半信半疑でした。ですが、高松教区の青年会は今年、大きなプロジェクトであった「あっちこっちミサ」の事務局をやり遂げることができ、青年会として、まとまってきています。何より、地元の高松で青年会活動を、身近な仲間たちとできる、という期待と喜びを胸に、私は高松での青年バンドの一員となりました。

１２月６日の桜町教会での子どものミサに向けて、私達は毎週日曜日にカトリック会館に集まり練習しています。メンバーも順調に増え、桜町教会でお互い顔を合わせ、音楽を奏でながら分かち合っていくことで、今までにはなかった、桜町教会での青年の輪が確かなものになっていると強く感じています。年齢も性別もバラバラですが、中学生から青年まで、みんな「ひとつ」となって素敵なミサにするために練習を重ねています。私は、地元でみんなと出会い、いっしょに活動ができることに大きな喜びを感じています。本当にできるのだろうか、という不安と疑問は吹き飛び、私達は皆、今では毎週日曜日に一週間がんばる力をもらっています。

私達が目標としているのは、桜町教会での子どものミサの伴奏です。実は、私達のバンドには、まだ名前がありません。今年最後の練習日となる１２月２９日に、今まで頑張っているメンバーみんなで、このバンドの名前を考えようと思っています。ほんのちいさな動きかもしれない、この青年バンドが、高松に新しい青年の風をもたらす存在になれればいいな、と思っています。

高松教区諸委員会紹介

女性の視点から教会を考える委員会

（通称「高松教区女性の会」）

「女性の視点から教会を考える委員会」は、二〇〇七年Sr高松常子を委員長として「上からの組織作りではなく、横のつながりを深めながら、緩やかに形作っていくという形をとる」という教区の方針によって歩みだした会である。（参照・教区報一一六号）

この会の目的、

①女性の信徒として、個々の霊性を高めつつ女性としての細やかな心を持って、宣教に努める。

②司祭、神学生とそのご家族、そして司祭・修道者の召命のために祈る。

③地域での奉仕に目を向けていく。

④年に一回、大会を開催する。

来年の大会は、二〇一〇年十一月六日、テーマは「環境問題と霊性」、講師に瀬本正之師を招く予定。

自殺やうつ病への対応を学ぶ

教区司祭研修会

十一月十日塩江黙想の家研修棟において高松教区在住司祭二十五名が集まり心理療法士・安田一之氏の専門分野である心の健康と病について、明快かつ機知に富んだ講義を聴いた。三時間の長丁場にもかかわらず、話に引き込まれ、もう少し聴きたいという声も聞かれるほどであった。

カウンセリング（心理療法）とは何なのかということから始まり、今、日本で大きな社会問題となっている自殺とその病理である鬱病、それに対する基本的な関わり方などを多面的に聴く貴重な時間を持った。

質疑応答では司祭として悩み苦しむ人とどのように接したらいいのかなど時間を大幅に超える熱心な質問が飛び出し、再度の研修をとの声の中終了した。

あなたのいぶきを受けて

シスター　高松常子

「教区女性の会　大会」

去る十一月七日（土）穏やかな天候に恵まれ、四国カトリック会館において、女性の会の大会が開催されました。十四の小教区からの参加者は八十数名で、内、男性の方も四名出席してくださいました。講師の佐々木神父様、来賓の日カ連の副会長、阿部様、市原様をお迎えしました。又「賛美の歌」の皆さんが、美しい歌声でこの大会を盛り上げ活気づけて下さいました。

大会テーマは「女性の信徒の役割―召命と使命」、佐々木神父様は第二ヴァチカン公会議が再確認した信徒の尊厳について、「教会は旅する神の民であること。神の民は、キリストの預言職、祭司職、王職に与ること。信徒の役割は社会と家庭の只中で、地の塩、世の光として、神の国の完成を目指して福音をあかしすること。女性の信徒は、特に各家庭が教会となるように子どもたちに信仰教育をほどこす召命と使命をいただいていること」を話されました。

講話に先立って参加者が各小教区の活動、現状を分かち合いました。それぞれの限界や困難にもめげず、女性たちが各小教区で頑張っておられる様子が述べられたことはお互いにとって大きな励ましとなったのではないでしょうか？昼食時には、なるべく他の地区の方々と交わるよう席を移動しました。閉会の祈りとして、「司教・司祭のための祈りを唱え、また召命を求める祈りに続いて、参加者が会場で二重円を作り、手をつなぎ、「あめのきさき」を歌ったことは、横のつながりを感じ合い、聖母の取次ぎを願って、信仰を深め伝えていきたいという思いを新たにすることができたのではないでしょうか？ちなみに来年の大会のテーマは「**環境問題と霊性**」です。講師は瀬本正之神父様（イエズス会）を予定しています。皆様のご参加をよろしくお願い致します。色々ご協力くださり、本当にありがとうございました。

日常を感謝する

松山教会　山口理奈子

今年の七月、東京にある聖グレゴリオの家の講習会に参加した折、福者ペトロ・カスイ岐部神父様の殉教地、小伝馬町を訪れた。JR馬喰町駅からビル街を車道に沿って数百メートル歩き、右折し、信号を渡った一つ目の角のところに殉教地安楽寺を見つけた。お寺の人に尋ねたところ、ちょうどお地蔵さんの立っているところで昔、犯罪人が処刑されたのだそうである。福者ペトロ・カスイ岐部神父様もその御一人として殉教されたのである。元牢屋敷跡は今は十思公園となっている。何人かのホームレスらしき人達が暑さを避けて横たわっていた。安楽寺殉教碑の前で「昼の祈り」を唱え立ち去った。

聖マルチン病院
薬剤師・看護師　（募集）　随時募集しています。
聖マルチン病院で専門職を発揮しませんか

下記にご連絡ください。
（総務課）
0877-46-5195

家庭祭壇

祈りと安らぎの空間
家族揃って祈れる場所がご家庭におありでしょうか？
8.5万円～各種取り揃えておりますので、お気軽にご相談ください。カタログを無料にて郵送致します
TEL 0972-63-4187
担当：ローザ平林美穂子
〒875-0041
大分県臼杵市畳屋町三組　山本鳳凰堂

TOTAL INTERIOR SanYu
室内装飾の総合企画・設計・施工
三友商事株式会社
代表取締役 杉本 憲俊
〒761-0311 高松市元山町1235-1 TEL087-867-0033
FAX087-867-0029

医療のともしび（18）

ホスピスケアについて

私は、医学部卒業後３年間、大阪の淀川キリスト教病院に勤務した。最初の１年間は、院内に泊り込んで各科をローテーションして、２４時間オンコール体制で研修した。同病院は、プロテスタントの病院で、全人医療を掲げ、院内牧師が常駐し、毎朝 朝礼を兼ねた礼拝があった。

外科に配属された初日、入院患者さんの回診での会話に驚かされた。当時は、癌の告知がほとんどされていない時代だった。外科部長が病室に入るなり、「神様のみもとにいかれる準備はできましたか。」と言われたのだ。患者さんもクリスチャンであったが、「ええ、いい準備ができました。」と言ったのだ。しかも、満面の笑みをたたえて。大腸癌の末期で、痛みも相当あったであろうが、死の恐怖を完全に乗り越えた笑顔であった。手術、抗癌剤の副作用、入退院の繰り返しと壮絶な戦いの後の笑顔であった。あと二言三言会話をして、次の病室に移った。彼女が亡くなったのは、その２日後である。

当時、同病院は新病院建築中で、１年後には、西日本で初めてのホスピス病棟ができた。その準備のために、病棟内ホスピスケアを実施していたのだ。医師、ナース、薬剤師といった医療スタッフだけで無く、牧師、患者さんの家族等関係する全ての人が一同に会して、徹底的にその患者さんのカンファレンスを繰り返していたのである。その結果としての回診中の笑顔であった。

今は、癌も告知される事がほとんどだが、ホスピスケアが浸透しているとは、言い難い。我々カトリック医師は、ホスピスという場は無くとも、その精神を肝に銘じて日々の診療に当るべきだと再確認をしたい。

医療法人聖心会
院長　阪本一樹

沖縄平和巡礼（高松教区 人権を考える委員会主催）

毎日のように沖縄の話題が報道されています。沖縄の人々に触れ、語り部の言葉を通して平和を考えたいと「沖縄平和巡礼」を企画しました。沖縄教区で働く聖マリアのけがれなき御心のフランシスコ姉妹会のシスター宮城涼子氏が中心となり、プログラムを用意してくだいます。各小教区を通して案内書を配布しています。

日時：2010年2月11日（木）～14日（日）
宿泊：クララ修道院
申込期限：2010年1月15日（金）
募集人数：20名、費用72,000円
問合せ先：Sr.メリー・ギリス
TEL 087-831-6659
担当旅行会社：名鉄観光
（楠 晃 氏）

日本２６聖人の道を辿る

二十六聖人巡礼ウォーク・・・それは京都から長崎まで日本二十六聖人の歩いた道をたどり、黙想する巡礼の旅である。二〇〇一年三月に京都を出発。原則として隔月に実施し、昨年一一月の第四十九回巡礼で佐賀県武雄市に到達した。残すところ、武雄から彼杵までと（海路を省略し）時津から長崎西坂までの二回となった。

これまでの各回の参加者は七名～二十六名、すでに帰天された方、教区外に転出された方、一度だけ参加したことのある方など様々である。必ず毎回参加できるものでもなく、故深堀司教様から託された十字架と発起人の一人で道半ばにして天に召された大浦保樹氏の遺骨をリレーし、巡礼団として長崎までの道をつないでいる。もう一つ、巡礼の道をつなぐもの、それはロザリオの祈りである。道中、各自がそれぞれの意向をもってロザリオを唱えることが巡礼のルールである。それらの祈りが長崎までつながっていくのである。

最終回は、西坂で行われる二十六聖人記念ミサへの参加を計画し、参加者募集中である。

桜町教会　長谷川　聖
（巡礼の記録は、桜町教会ホームページに掲載）

第４９回巡礼にて（武雄市内）

カンテレクリスマスコンサート　フィンランドの風景を描く

十二月五日桜町教会で行われたフィンランドの民族楽器カンテレのクリスマスコンサートに行きました。ハート形を半分にした木の台に張られた三十九弦の音色は、天空からのようでした。民族衣装を身に着けた演奏者はざた雅子さんは楽しいトークを交えながら、フィンランドの風景を描く曲目を次々と演奏してくださいました。午後の太陽が聖堂のステンドグラスを神々しく輝かせ、その光の中で奏でられたシベリウスの「エン・エッティ・ヴァルタ」という曲は「富も黄金も力も要らない。欲しいのは光だけ。」という印象的な表現でした。目を瞑ると、澄んだ音色に包まれオーロラのような光が見え、神様が注いでくださる心の光を感じました。最後の曲フィンランディア讃歌を聴きながら、第二次大戦中ソ連に二度も攻められたにも拘らず屈しなかった勇敢なフィンランド国民と高松教区のために働こうとしている全ての神学生の姿が重なり、勇気付けられました。

番町教会　吉村淳子

主な司教日程

1月
- 8日（金）カトリック学校職員旅行（八戸）
- 12日（火）司祭評議会　10:00
- 14日（木）社会司教研修会（～16日　さいたま）
- 17日（日）パウロ講座（高知地区）
- 19日（火）教誨師総会（～20日　京都）
- 21日（木）エキュメニカル祈祷一致週間（坂出）
- 22日（金）宣教司牧評議会13:00
- 24日（日）西条教会堅信式
- 30日（土）教区小教区合同会議
- 31日（日）パウロ講座（徳島地区）

2月
- 4日（木）神学校委員会（東京）
- 7日（日）高山右近祭（高槻教会）
- 11日（木）名古屋教区修女連
- 14日（日）黙想会（別府教会）
- 25日（木）司祭集会

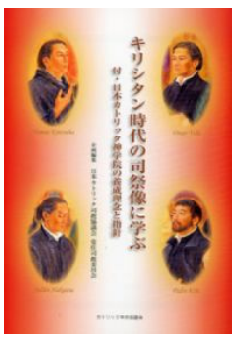
教区スケジュール

1月
- 1日（金）神の母聖マリアの祝日
- 3日（日）主の公現
- 8日（金）司教館初出勤
- 10日（日）主の洗礼
- 11日（月）成人の日
- 12日（火）司祭評議会　10:00
- 17日（日）年間第2主日
- 18日（月）エキュメニカル祈祷一致週間（～25日）
- 20日（水）朝祷会6:30
- 22日（金）宣教司牧評議会役員会13:30
- 23日（土）教区青年の集い（～24日）
- 24日（日）年間第3主日「児童福祉の日」
- 30日（土）教区小教区合同会議
- 31日（日）年間第4主日

2月
- 2日（火）主の奉献　司祭評議会　10:00
- 5日（金）日本26聖殉教者
- 7日（日）年間第5主日
- 11日（木）建国記念日
- 14日（日）年間第6主日
- 17日（水）灰の水曜日（大斉・小斉）朝祷会6:30
- 21日（日）四旬節第1主日
- 25日（木）司祭集会in池田
- 28日（日）四旬節第2主日

新刊書籍紹介

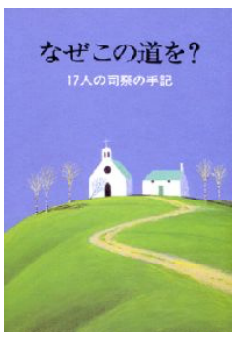
■キリシタン時代の司祭像に学ぶ



列聖列福特別委員会の委員長である溝部脩高松司教が書き下ろした「キリシタン時代の司祭像に学ぶ」に、2つの神学校が統合して今年発足した日本カトリック神学院の「養成理念と指針」を添えて1冊の冊子にいたしました。聖職者に向けられるばかりでなく、司祭の養成と新・神学校について、すべての信徒の理解を求めるべく編まれています。

溝部脩 著
発行日:2009/11/6　判型:A5
ページ数:48　税込定価:210
刊:カトリック中央協議会

■なぜこの道を



人はそれぞれ自分の人生の道としてある生き方を選択し、決断していく。遊びだって、恋だって、結婚だってしたいはずの人生なのに……。「なぜ」神父になるの？

ここに、「なぜ」にこたえる、出会いのドラマがある。人の思いを超える神秘な力の導きを感ぜざるをえない。17人の一人ひとりのユニークなドラマは、わたしたちの心を打つ。

相馬司教ほか１７人の司祭 共著
判型:文庫　ページ数：224
税込定価:735 刊：女子パウロ会

書籍のお求めは
松山教会マリア書院、桜町教会書院へどうぞ

編集後記

ある日の編集委員会に司教様がひょっこりお出でになりました。自らお湯を沸かして出席者にコーヒーをふるまってくれました。忙しい毎日。ほんのちょっと休みたいでしょうに。振り返って感謝と喜びのうちに一年を過ごしてまいりました。今年も皆様のご愛読と御寄稿よろしくお願い申し上げます。

御寄付の御礼と御報告

カトリック郡中教会天使会よりはざた雅子カンテレコンサートの収益金を神学生養成のため一粒会献金として頂きました。お礼とご報告を申し上げます。

私たちは、自分を創造しようとするこどもをまなび、護りましょう
暁の星学園
鳴門聖母幼稚園　高知聖母幼稚園
阿南聖母幼稚園　海の星幼稚園

学校法人 ロザリオ学園　URL http://rosario.ac.jp/
カトリック精神に基づき、自由・平和・愛に満ちた調和のとれた教育をめざします。
2010年度 入園児募集中

海の星幼稚園	〒791-8076 松山市会津町６－１	TEL 089-951-1717
道後聖母幼稚園	〒790-0848 松山市道後喜多町７－２５	TEL 089-924-2442
天使幼稚園	〒799-3113 伊予市米湊７５６	TEL 089-982-0503
若葉幼稚園	〒794-0028 今治市北宝来町１－２－１	TEL 0898-22-2063
愛光幼稚園	〒792-0011 新居浜市西原町１－４－６	TEL 0897-32-3442
西条聖マリア幼稚園	〒793-0030 西条市大町７１６－１	TEL 0897-55-2497
八幡浜聖母幼稚園	〒796-0037 八幡浜市昭和通１１８２－７	TEL 0894-24-4888
愛和聖母幼稚園	〒798-0060 宇和島市丸之内１－４－１８	TEL 0895-22-1048